

平成26年4月30日

第121号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



水の木幹線林道復旧工事（神奈川県足柄上郡山北町）

（撮影者：東京神奈川森林管理署 業務グループ）

公益重視の管理経営と地域の森林・林業の再生

～平成26年度関東森林管理局重点取組事項～

総務企画部 企画調整課

私と国有林「豊かな自然を未来に引き継ぐために」

たいない自然学校 代表理事 佐藤 陽志氏

「公益重視の管理経営と地域の森林・林業の再生」

平成26年度 関東森林管理局重点取組事項

総務企画部 企画調整課

関東森林管理局では、一般会計の下で公益重視の管理経営の一層の推進及び我が国の森林・林業再生への貢献を旨として、民有林との連携に積極的に取り組むつつ、これまで以上に計画的かつ効率的な事業運営を行います。

特に、今年度は、昨年12月に策定した新たな「国有林野の管理経営に関する基本計画」において、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に位置づけられた国産材の安定的・効率的な供給体制の構築への貢献や、森林吸収源対策への率先した取組などを踏まえ、国有林の組織、技術力、資源を活かし、造林・間伐等のコスト削減や路網整備、木材安定供給をはじめ地域の森林・林業の課題解決のため、局、署等が一体となって取り組んでいきます。

また、東日本大震災で被災した海岸防災林の早期復旧や、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響のある被災地における林業再生対策等にも全力で取り組んでいきます。

【公益重視の管理経営の一層の推進】

国土の保全、地球温暖化防止及び生物多様性の保全等公益的機能の維持増進を旨として、森林整備事業や治山事業の計画的かつ効率的な実施、保護林制度による原生的な森林生態系の保全・管理などを通じて、公益林として適切に管理経営を実施します。

○計画的かつ効率的な森林整備事業の実施

地域管理経営計画等に基づき、適切な施策を推進します。特に、森林吸収源対策として、引き続き間伐を推進するとともに、将来の吸収量確保のため、主伐及びその後の再造林を着実に進めるための取組を行います。

また、林道と森林作業道等を組み合わせた効率的な路網整備を進めます。事業実施に当たっては、低コストで高効率な作業システムの定着、コンテナ苗の導入等、民有林のモデルとなるような効率的な事業実施を行います。

○治山対策

集中豪雨等によって被災した緊急性の高い荒廃山地の復旧整備等を行うとともに、山地崩壊地の復旧、過密化した保安林の整備等により緑の国土強靱化対策を推進します。治山事業等の森林土木工事の実施に当たっては、「新農林水産省木材利用推進計画」に基づき、木材の特質を考慮しつつ緑化基礎工、法面保護工等に間伐材を積極的に利用するとともに、間伐材を活用した型枠合板の利用について取り組むなど、木材の利用促進に取り組めます。



間伐材を利用した治山工事

○生物多様性の保全

保護林や緑の回廊等の適切な保全・管理を進めます。特に、平成23年度に世界自然遺産に登録された小笠原諸島における外来種の駆除対策をはじめとする保全・管理に取り組めます。

また、溪畔周辺の森林の連続性を確保し、森林生態系ネットワークの形成を図るため、2以上の河川等を対象に、溪畔沿いでのモデル的な保護樹帯の設定に取り組めます。

○野生鳥獣被害への取組

近年、シカ等野生鳥獣の生息数の急激な増加による食害等に起因する森林被害が甚大で、このまま放置すれば生物多様性や国土の保全等、森林の公益的機能の発揮に重大な影響を及ぼすことが危惧されます。このため、貴重な保護林や造林地等に防護柵や立木に巻く防護ネット等を設置してシカ等による被害から森林を保護するとともに、地域協議会等と連携してシカ捕獲にも積極的に取り組めます。

また、森林総合研究所等の研究機関の協力を得ながら「ニホンジカ影響簡易チェックシート」の活用等による被害状況の把握、効率的なシカ捕獲技術の開発に努め、これらの情報や技術を活用し、民有林関係者等と連携した被害対策に取り組めます。



尾瀬大江湿原におけるシカ被害防護柵の試験設置

【森林・林業再生に向けた貢献】

我が国の森林・林業の再生に向けて、国有林の組織、技術力、資源を活用し、民有林と連携した施業の実施、森林・林業技術者等の育成、低コストで効率的な作業システムの提案・検証や先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行、林産物の安定供給等を通じて、民有林に対する支援に積極的に取り組みます。

○民有林と連携した森林整備の推進

森林共同施業団地の設定に加え、制度化された公益的機能維持増進協定などを活用し、隣接する民有林と

一体となった間伐等の実施を推進します。

①「公益的機能維持増進協定」の取組

平成25年度に協定を締結した天竜署管内（静岡県浜松市）及び日光署管内（栃木県日光市）において、間伐等の森林整備を民有林と国有林が一体となつて着実に実施するとともに、局署一体となつた新たな締結箇所の取組を推進します。

②「森林情報の共有化」の取組

平成25年度に群馬県と連携し、民有林と国有林における森林GIS情報の共有化の取り決めに締結したことから、今後、他の都県とも森林情報共有化へ向けての取組を推進するとともに、今後、民有林と連携した森林施業にも貢献していきます。

○人材の育成

林業普及指導員資格試験制度の改正を受け、森林総合監理士（フォレストスター）となつた国有林職員が市町村森林整備計画の策定等に係る民有林への支援や、将来のフォレストスター候補となる者の育成のための研修等への講師派遣、フィールドの提供等を通じた人材育成の支援に取り組めます。

また、フォレストスター等の活動基盤となるべき仕組みが必要であるため、民有林と国有林が連携したフォレストスター等の活動を組織的にサポートで

きる体制づくりに取り組みます。

○林業の低コスト化に向けた技術開発の推進

地球温暖化防止に係る森林吸収源対策として、今後、主伐及びその後の再造林を積極的に推進するため、民有林経営への普及を念頭にした林業の低コスト化等に向けた技術開発を推進するとともに、その成果を国有林の管理経営や民有林への普及・定着に資するよう取り組みます。

具体的には、実生コンテナ苗を用いた一貫作業システムによる低コスト造林技術、急傾斜地における架線系高性能林業機械とコンテナ苗造林による一貫作業システム及びエリートツリー等の優良品種の導入などに取り組みます。



パネルディスカッションの様子

○木材の安定供給

森林整備により生産される木材については、地域の需要や木材市況動向等を踏まえ、一般市場への委託販売のほか、国産材の需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組み製材工場や合板工場との協定に基づいて国有林材を安定的に販売する仕組み（システム販売）の活用により、流通加工体制の整備に貢献していきます。特に、システム販売については、

国産材の利用拡大を図る観点から、需要に応じて、製材用材、合板用材の他、土木用資材、チップ原料としての活用やバイオマス発電燃料への林地残材の活用に努めます。

また、民有林と連携した木材の安定供給にあたっては、地域の需給動向を把握しつつ、きめ細やかな人材に取り組むとともに、民有林材と国有林材の協調出荷、民有林材と連携したシステム販売（未利用間伐材等の用途）等にも取り組みます。

【「国民の森林」としての管理経営】

地域の森林環境教育を実施する民間団体、地域の森林インストラクター等との連携を図り、小・中学生等を対象とした森林教室や体験林業等の取組を実施します。

また、森林づくりへのニーズに対応するため、企業等が社会貢献活動の一環として森林整備を行う「法人

の森林”や、協定締結による「ふれあいの森」「遊々の森」「社会貢献の森”など、国有林をフィールドとした国民参加の森林づくりを引き続き推進します。

【東日本大震災からの復旧・復興への貢献】

東日本大震災からの復旧・復興への貢献として、福島県における放射性物質に対処した林業再生対策への取組、東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質に汚染された森林の除染、海岸防災林等への早期復旧及び除染に必要な仮置場設置のために市町村等からの貸付要望に積極的に対応する取組等を進めます。

○森林再生へ向けた取組

被災地の林業再生を図るため、市町村等と連携して、放射性物質に対処した林業再生対策等に取り組みます。

また「放射性物質汚染に関する特措法」に基づき、汚染状況重点調査地域内にある国有林については、市町村の除染実施計画を踏まえ、「森林放射性物質汚染対策センター」を中心に、関係市町村と十分に連携しながら着実に除染を進めます。さらに、森林除染の技術確立に向け、林野庁と局署が連携しながら実証事業に取り組みとともに、その成果につ

いて、関係機関への情報提供を行います。

○海岸防災林の復旧等

東日本大震災により被災した海岸防災林や林道等の復旧については、市町村策定の復興計画等を踏まえ早期復旧に取り組みます。

海岸防災林の再生に向けては、生物多様性に配慮した樹木の生育基盤の造成等を進めるとともに、NPO等と連携した植栽等を実施します。

○国有林の提供

除染に必要な仮置場について、除染事業を実施する市町村等から要請があった場合は国有林の提供に積極的に協力します。



大型土嚢袋の搬入状況

幹部の紹介

4月1日付け()は前職

関東森林管理局次長

(東京事務所長)

上野 司郎



出身 (略歴)

- 昭和56・4 林野庁入庁
- 平成2・4 前橋営林局山口営林署長
- 平成5・4 前橋営林局企画調整室長
- 平成10・4 林野庁業務部業務第一課課長補佐
- 平成12・4 林野庁林政部森林組合課課長補佐(総括)
- 平成18・4 林野庁森林整備部治山課山地災害対策室長
- 平成19・10 中部局計画部長
- 平成21・4 北海道局森林整備部長
- 平成23・5 同局総務部長
- 平成24・7 森林農地整備センター 関東整備局長
- 平成26・4 関東森林管理局次長

関東森林管理局課長等

▽計画課長 島内 厚実 (四国局計画課長)

▽技術普及課長 森内 賀久 (企画調整課監査官)

森林管理署長等

▽会津森林管理署南会津支署長 小木曾 基雄 (中部局岐阜森林管理署次長)

▽棚倉森林管理署長 坂井 康宏 (林野庁管理課課長補佐)

▽茨城森林管理署長 安永 正治 (東北局三陸中部森林管理署長)

▽東京神奈川森林管理署長 齋藤 均

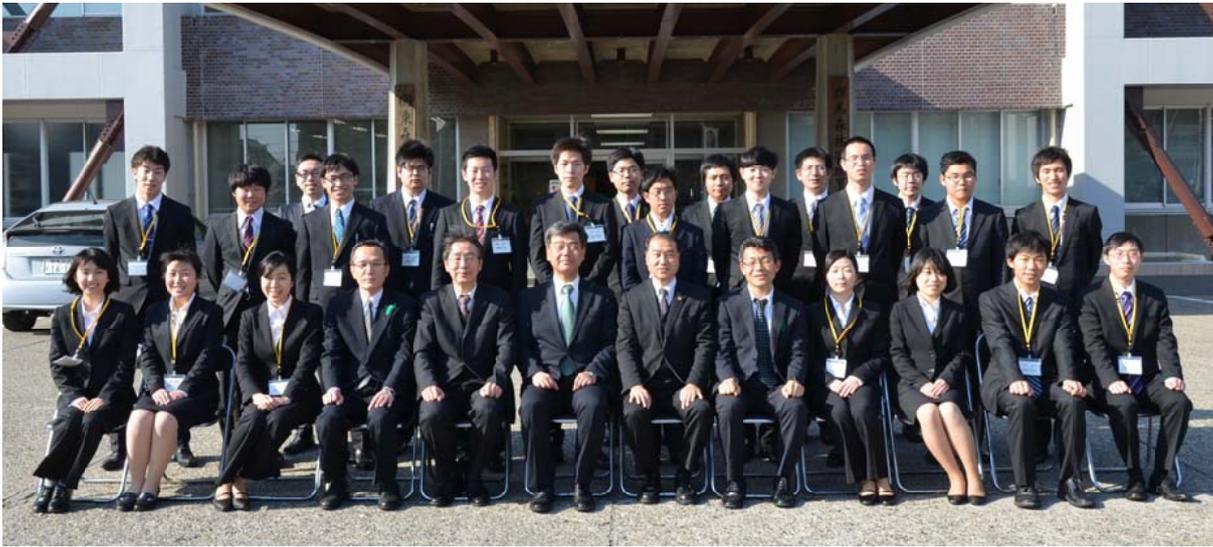
▽中越森林管理署長 西 真 (東北局庄内森林管理署長)

▽天竜森林管理署長 川添 峰夫 (技術普及課長)

▽伊豆森林管理署長 金井 正典 (北海道局十勝西部森林管理署長)

▽千葉森林管理事務所長 高濱 美樹 (林野庁森林整備部計画課付)

新規採用者の紹介



今年度4月1日に各森林管理署等へ配属された新規採用者23名です。

4月7日からの局での新採用研修を終え、それぞれ所属先で職業人としてスタートしました。

平成26年度新規採用者

(前列右から)

▽群馬森林管理署

菅谷 恭平

▽天竜森林管理署

田尻 研介

▽静岡森林管理署

佐古 瑤子

▽茨城森林管理署

福岡 恵子

▽日光森林管理署

南 とも

▽吾妻森林管理署

藤井 栄梨子

▽群馬森林管理署

富田 那水

(後列右から)

▽下越森林管理署

高橋 勇樹

▽千葉森林管理事務所

緒方 健人

▽静岡森林管理署

長野 祐介

▽山梨森林管理事務所

原 寛明

▽会津森林管理署南会津支署

三浦 晃

▽下越森林管理署村上支署

國利 基起

▽上越森林管理署

百瀬 遼

▽棚倉森林管理署

井口 和穂

▽塩那森林管理署

齊藤 慶介

▽福島森林管理署

山崎 智司

▽磐城森林管理署

小檜山 諒

▽吾妻森林管理署

石川 喜規

▽会津森林管理署

中島 敬太

▽中越森林管理署

新井 健司

▽福島森林管理署白河支署

根本 翼

▽利根沼田森林管理署

篠原 翔斗

「今月の表紙」 「水の木幹線林道復旧工事」

平成22年9月の台風被害の復旧工事です。

観測史上最高の降雨量によって世附・中川地区の水の木幹線林道および大又沢幹線林道は壊滅的被害を受けました。

被害を受けた箇所は急峻で迂回路もなく、復旧作業は困難を極めていますが、全線開通に向けて復旧工事を進めています。



私と国有林

「豊かな自然を未来に引き継ぐために」

たいない自然学校 代表理事 佐藤 陽志



私が住んでいる胎内市は、西は日本海に面する海岸から、東は山形県境に接する飯豊連峰まで、変化に富んだ豊かな自然環境に恵まれた田園都市です。

胎内市の全面積約2万7千鈔の約7割が森林で、国有林は森林の約7割を占め「磐梯朝日国立公園」に含まれる飯豊連峰、その西側の自然豊かな奥胎内、日本一小さな山脈(全長13・5キロメートル)として国土地理院から認められている楡形山脈、そして海岸沿いのマツ林まで多彩な自然を楽しむことができます。

私は、胎内市の楡形山脈の麓で生まれ育ち、豊かな自然が遊び相手、小刀を手に山野を駆け回ったり、冬期はアルペンスキーに熱中し、学校が終わると、毎日のように胎内スキー場に通い、ナイターが終わるまで練習したことを思い出します。

家庭を持って子供が誕生すると、人間の活動によって自然を傷つける

ような生活をこのまま続けて良いのだろうかと考え、静岡県にある「ホルアース自然学校」のスタッフとして、子供たちや年配者を対象とする自然体験プログラムの企画・運営に携わり、5年ほど経験を積んで胎内市にUターンしました。

その後、楡形山脈の麓に「たいない自然学校」という環境教育事業所を立ち上げ、現在は、様々なフィールドで自然体験活動を行っています。春から秋のシーズンには、国立公



胎内スキー場に出没するカモシカ

園を管理する環境省の方々などと協力して、親子を対象とした自然観察会やキャンプ、大人を対象としたトレッキングなどを行っています。

冬のシーズンは、胎内市で以前から学校教育の一環としてスキー授業を実施し協力しているほか、最近ではバックカントリーを歩くスノーシューガイドを担当しており、積雪地帯の自然のすばらしさを体感してもらっています。

胎内スキー場周辺は、自然環境の大切さを伝える活動の拠点となっています。

このように、私がフィールドとして紹介しているこの胎内の豊かな自然が未来に引き継がれ、自然に親しむ活動が末永く続くことを願っています。



親子を対象としたキャンプ風景

ます。

私は農業も行っていますが、人間の命を育む「食」は自然からの恵みであり、様々な資源もまた同じです。今を生きる私たち世代が使い切つて良いものではなく、壊すことも許されません。

これらを将来に引き継ぐことが、私たちの責務であると思います。

子供たちが今と変わらない恵みを受け続けていくために、日常生活を見直し、持続可能な開発にシフトしていくことが現代人に求められる選択です。

そのため自然を好きになつてもらい、これからも自然の恵みをいつまでも受けられるように活動を続けていきたいと考えています。



雪山の散策に参加した方と記念撮影

森づくりの最前線

塩那森林管理署 中塩原森林事務所 首席森林官 工藤 久也

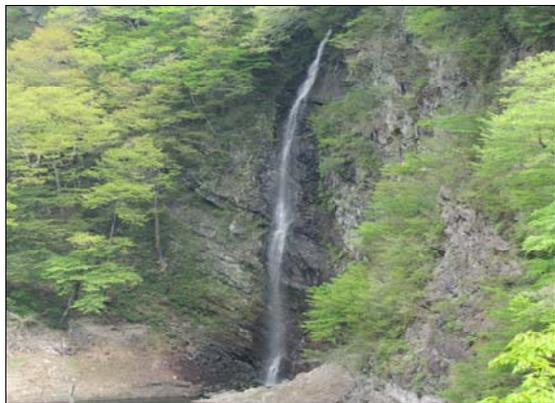


高原山系

私が勤務する中塩原森林事務所（中塩原・塩釜担当区）は、栃木県北東部の那須塩原市（旧塩原町）に位置し、那珂川の支流である箒川の中上流域の国有林約9600鈔を管理しています。

管内の国有林の標高は400〜1800mで、スギ、ヒノキ、カラマツを主とする人工林から山頂部周辺には、コメツガ、モミ、イヌブナ、ダケカンバ等の天然林が広がり、多様な森林で構成されています。

塩原地区には、箒川の溪谷に沿って11の温泉地（源泉は約150箇所ある）が連なる温泉郷で、泉質もそれぞれ異なっており、豊富な湯量、多彩な泉質を楽しむことができます。



回顧(みかえり)の滝

また、箒川、鹿ノ股沢等の溪谷には、連珠の滝、回顧（みかえり）の滝、竜化の滝等多数の滝があり自然景観に優れていることから自然観察教育林、風景林に設定されています。

それぞれの滝へは、歩道も整備されており、四季折々の景観を楽しむことができます。多くの方に親しまれています。

塩原の奥に位置する富士山（ふじやま）や大沼周辺の国有林では、高原山系の火山活動に起因し、多くの湿地が形成されるなど、特徴のある景観と生態系が見られ、富士山や大沼、ヨシ沼には遊歩道が整備され散策を楽しむことができ、大沼周辺の森は「森林浴の森100選」にも選定されています。



大沼から見た富士山(ふじやま)

地元からの要望を受け「富士山・大沼自然観察教育林」の周辺約140鈔を平成16年12月に当署と那須塩原市との間で「大沼周辺自然再生推進事業」にかかる協定書」を締結し、協議会を開催しながら、大沼周辺の自然再生へ向けた森林整備、ヨシ沼の植生及び水位調査等を行っています。

ヨシ沼では日本に生息するトンボ類では最小（2センチほど）のハッチョウトンボを、大沼・赤沼ではクロサンショウウオやモリアオガエルなどを見ることが出来ます。

一方で担当区内の人工林においては、近年、クマ・シカ剥皮被害が多く見られるようになり、国有林・民有林問わず、林



大沼のモリアオガエル

業経営において深刻な問題となっています。

このことについて、関東森林管理局では、平成21年度から5ヶ年計画で「クマ・シカとの共存に向けた生息環境等モデル事業」を実施し、剥皮の要因解明・生息環境の改善による被害の軽減等について検討を行いました。

今後は、地域・関係する県や市町村との連携を取りながら、クマ・シカに「剥皮をさせない環境づくり」を進め、共存できる生息環境の構築ができるよう期待しているところです。

このような自然あふれた塩原地域を後世に残せるよう、地元自治体や住民とのかわりをお互いに、地域の要望にこたえられるよう取り組んでまいります。

管内のいちおしスポット

高尾山

■ **東京神奈川署** http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tokyo_kanagawa/index.html
 〒254-0046 神奈川県平塚市立野町38-2
 TEL:0463-32-2867(代表) FAX:0463-32-2868

高尾山を含む高尾山自然休養林は、東京都心からは約1時間とアクセスも良いことから、今までもたくさんのメディアで紹介され、多くの行楽客で賑わっています。

特にミシュランガイドで三つ星の観光地に選ばれてからは、それまで年間250万人ほどだった行楽客は、400万人近くになっています。

高尾山山頂へはケーブルカーや、1号路から6号路のほか稲荷山コースなど、バラエティに富んだ遊歩道が整備されていて、特に、高尾山口のケーブルカーから1号路を經由し山頂に向かうコースは、約1時間40分ほどで山頂まで行けること、途中には、さる園や高尾山薬王院などの観光スポットがあること、山頂から富士山をはじめ、丹沢山地、東京都心、房総半島なども見えることから、行楽客のメインルートとなっています。

また、最近では、多くの行楽客が集中するメインルートを避けて、奥高尾縦走路や東海自然歩道、関東ふれあいの道などが登山者の人気になっています。

しかし、標高600m弱の低山とはいえ、起伏に富んでいて遊歩道も急であったり、滑りやすい箇所があるなど、時には遭難者も出る厳しい一面も見せますので、しっかりした身支度をして登山されることをお勧めします。

また、高尾山は植物の宝庫としても有名で、その数1600種以上とも言われ、60種以上の植物が新種として発見されていて、高尾の名を冠したタカオスミシなどがあります。

数ある遊歩道の中で、日影沢林道から入る「いろはの森学習歩道」では、登り口の沢沿いでは可憐な花を多く見ることができ、スギやヒノキの人工林を経て天然林を抜け山頂までの間には、いろは48文字を頭文字とする樹木の説明板が設置されていて楽しむことができます。

土日祝日を中心に、森林保護員が保護監視やマナーの向上のためパトロールしていますので、見かけたら声を掛けてみてください。貴重な情報が聞けるかも知れません。

高尾山自然休養林へのアクセス

高尾山山頂へは、京王線高尾山口駅から徒歩約5分でケーブルカー清滝駅。
 いろはの森コースへは、JR高尾駅からバスで小仏行き日影下車、駅から歩いて約30分です。

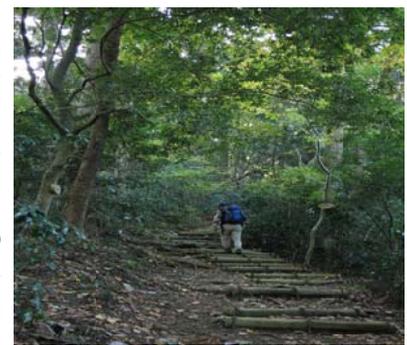
(東京神奈川森林管理署
 広報広聴連絡官 守屋 忍)



タカオスミレ



高尾山頂からの富士山



いろはの森歩道



お日影いろはの森の案内図

■ ■ 編 発
 F T 行
 A E 集
 X L 所
 (027) 総
 (027) 関
 221 東
 300 森
 111 林
 395 管
 38 理
 課 局